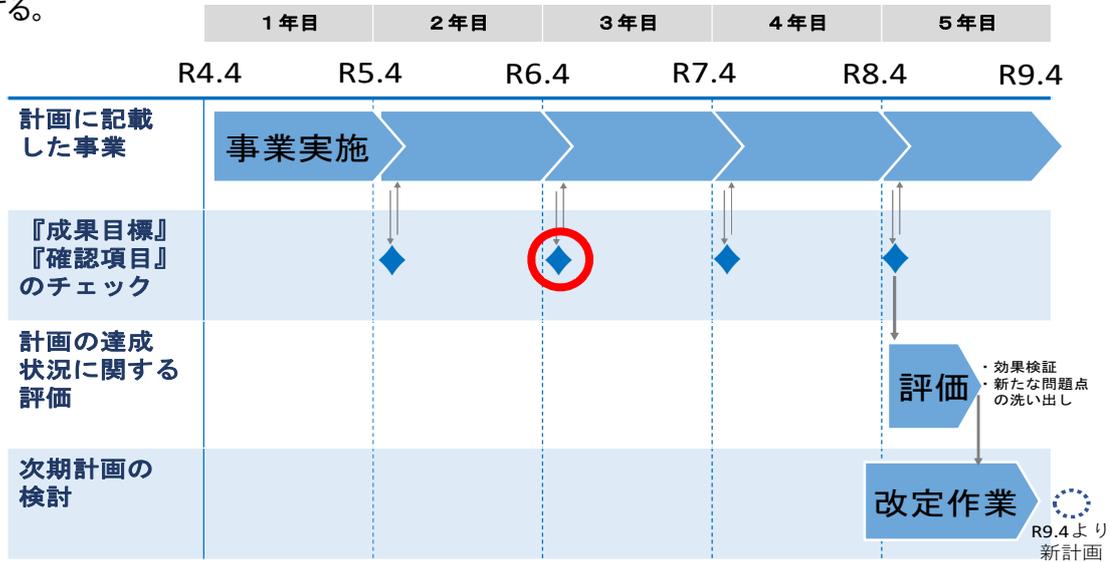


岡崎市地域公共交通計画の評価結果について

1 はじめに

本市では令和4年3月14日に岡崎市地域公共交通計画を策定し、鉄道事業者やバス事業者、タクシー事業者が連携して公共交通ネットワークの確保・維持、利用促進に取り組むとともに、行政・市民・交通事業者・企業・地域団体などがそれぞれ役割分担をし、設定した目標の実現を目指している。

計画の推進にあたり、目指すところとして「成果目標」を、基本目標の達成度合いをチェックする目的のため「確認項目」を設定し、これらの達成状況を見ながら計画の進捗状況を管理するため、本会議にて計画の目標値について評価を実施するものとする。



2 岡崎市地域公共交通計画の概要

- (1) 計画期間：令和4年度～令和8年度
- (2) 基本理念：新たなくらしと活力の創造を支える交通体系
- (3) 成果目標：公共交通利用者数の回復

目標値		達成状況（上段：利用者 下段：目標値に対する達成率）				
		R4	R5	R6	R7	R8
鉄道	2,678万人（R8）	2,138万人（R3） 80%	2,284万人（R4） 85%			
バス	668万人（R8）	519万人（R4） 78%	558万人（R5） 84%			
タクシー	137万人（R8）	79万人（R3） 58%	101万人（R4） 74%			

●達成状況・分析

- ・大河ドラマ放送の影響や新型コロナウイルス感染症の分類変更などの影響により、鉄道、バス、タクシー共に令和3年度と比較して利用者数が回復している。
- ・鉄道やバスについては、定期利用者が増加している事業者もあり、通勤・通学需要も回復傾向にあると推察される。

●達成状況・分析

- ・鉄道事業者と連携してウォーキングイベントやフォトコンテスト等の利用促進策を実施。
- ・パークアンドライドのほか、公共交通と連動したサイクルアンドライドを推進するため、新たに設置した鉄道駅での利用状況を分析し、利用回数が増加しているステーションへの自転車の再配置を行うことで、周遊しやすい環境を整備。
- ・高齢者パスの購入費用の一部補助を継続するとともに、市広報誌等で高齢者パス及び補助内容を周知し、公共交通の利用のきっかけづくりを行う。
- ・地域内交通の導入により既存バス路線と連携した移動を確保し、移動総量の増加に繋がるかを検証する。
- ・地域内交通の導入に際し、タクシー事業者と連携して事業を実施。
- ・岡崎観光伝道師「東海オンエア」のラッピングタクシーによる市内周遊促進を実施。

(4) 基本目標

●基本目標1 交流を支え都市の魅力を高める

確認項目	現況値	参考
都心ゾーンの鉄道駅乗降客数 (JR岡崎駅、愛環岡崎駅、名鉄東岡崎駅)	2,660万人(R4)	3,178万人(H30)
主要なバス停の乗降客数(岡崎駅前、東岡崎、康生町)	14,074人(R5)	16,950人(H30)
サイクルシェアの利用回数	71,851回(R5)	19,893回(R2)

●基本目標2 地域のニーズにあった地域主体の交通

確認項目	現況値	参考
公的資金が投入されている公共交通事業の収支率	31%(R5)	37%(H30)
公共交通への公的資金投入額	4.3億円(R5)	3.3億円(H30)
市運営路線の利用者数(額田地域コミュニティバス)	4,590人(R5)	5,573人(H30)

●基本目標3 人と環境にやさしい交通

確認項目	現況値	参考
駅のバリアフリー対応	未整備1箇所	中岡崎駅
ノンステップバスの導入率	74%(R6)	
高齢者パスの利用回数	2,066回/日(R5)	373,668回/年(R5)
鉄道・バスの沿線(鉄道駅から800m、バス停から300m)人口	299,038人(R5)	

●基本目標4 新たな社会に対応したスマートな交通

確認項目	現況値	参考
情報のオープン化 (オープンデータ化)	6路線(R5)	
コロナ禍における公共交通への不安(公共交通利用者数の回復) ※コロナ前と比較して利用者数の減少が大きい岡崎市内線を対象	225万人(R5)	260万人(H30)
ICカードの利用率	55%(R5)	全体の9%現金使用者